BUSINESS REPORT

第59期 株主通信

2017年4月1日～2018年3月31日

TOKYO KIHO

証券コード：7597

代表取締役社長　中川千秋

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃は格別のご支援を賜り、
厚く御礼を申し上げます。
ここに当社第59期（2017年4月1日から
2018年3月31日まで）における事業の概況を
取りまとめましたので、ご報告を申し上げます。
今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

2018年6月

当期の概要 Review of Operation

当事業年度におけるわが国経済は、政府の経済政策、金融緩和を背景に、企業収益や雇用環境に改善が見られ、設備投資も拡大するなど、景気は緩やかな回復傾向が見られました。しかし、海外政治の不確実性や地政学リスクの高まりにより先行きは依然として不透明な状況にあります。

宝飾業界におきましても、一部高額品の需要はあるものの、節約志向の高まりから消費の二極化が生じており、厳しい状況が続いております。

このような状況にあって、当社は得意とする催事･展示会関係を中心に積極的に販売活動に取り組み、売上の拡大を求めず収益の確保に努めてまいりました。

これにより、売上高は前期を若干下回りましたが、売上総利益率に改善が見られました。また、販売促進費等の支出の見直しにより営業利益は前期を上回る事が出来ました。

しかし、来期以降を見据え、経営効率を重視した融資契約への変更を行った事によるコミットメントフィーの発生、本社ビルの改修工事に伴う不動産賃貸原価の増加等により、経常利益、当期純利益の各段階で前期を下回る事となりました。

その結果、売上高5,025百万円（前期比2.7%減）、営業利益79百万円（前期比39.1%増）、経常利益82百万円（前期比10.1%減）、当期純利益56百万円（前期比32.0%減）となりました。

心から心へジュエリーでつなぐ豊かな未来

東京貴宝は、経済的な豊かさだけでは決して得られない「夢や感動や癒し」を求める心を
ジュエリーという形に表現してお客様につないでいくことが使命と考えております。
ジュエリーは生活必需品ではありませんが、単なる形としての美しさだけではなく、
お客様の思いや歴史や物語が投影されて、その人の人生に潤いと
豊かさをもたらすものだと信じております。
東京貴宝は、ダイヤモンドジュエリー、カラーストーンジュエリー、パールジュエリーなど
フルアイテムを提供できるジュエリー総合商社としての役割を担いつつ、
オリジナリティ豊かでハイクォリティなジュエリー開発に邁進しております。
東京貴宝は、原材料の仕入からジュエリーを身に着けてくれるお客様まですべての段階で、
すべての人々が幸せと感じられるような企業を目指しています。

次期の見通し Forecast

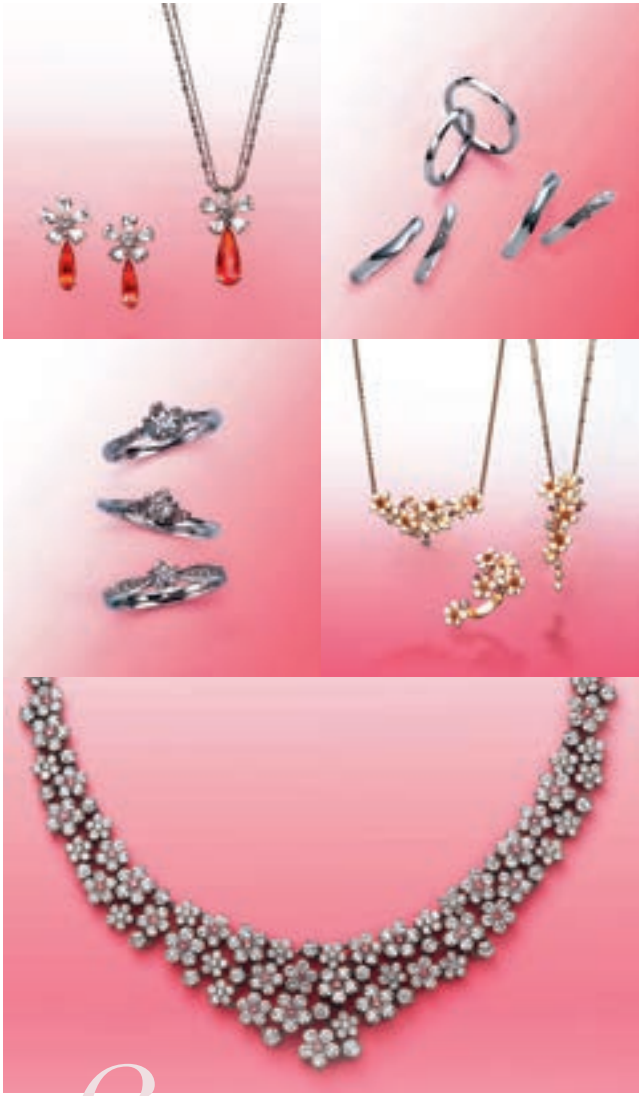
次期の見通しにつきましては、海外情勢の不安定さにより先行き不透明な状況ですが、国内は各種政策により緩やかな回復基調が続くと推測します。しかし当社の所属する宝飾業界は節約志向の高まりなどから、依然厳しい状況が継続されると考えております。

このような状況の中、来期は第60期という節目の年に当り、当社の主力催事である「東京ロイヤル会」の強化は勿論、各展示会においても採算性を重視した取り組みを行い、収益力を強化する経営を行っていきます。また、今期に行った経営効率を重視した融資契約への変更により営業外の支出が減少する見通しとなっております。

これにより、売上高については5,042百万円（前期比0.3%増）と予想しております。利益面につきましては、営業利益110百万円（前期比39.2%増）、経常利益177百万円（前期比115.3%増）、当期純利益146百万円（前期比161.7%増）となる見込みであります。

Topics

「奇跡（輝石）との出会いから生まれる
未来（夢）の実現」「エクレブ―ECREVE―」は、
輝き【eclat】と夢【reve】に想いを込めた
ブランドです。



さくらダイヤモンド®
Cherry blossoms diamond
Sakura

さくらダイヤモンド。
それは和の心と
ヨーロピアンのモダニズムの融合を
コンセプトに開花した美意識の結晶。

LUCCIOLA

女優・夏樹陽子デザインのブランド。
ルシオラとはイタリア語、ラテン語で蛍を意味します。
これは以前夏樹さんが夢の中で見た無数の蛍の光が
すべてダイヤモンドだったことに、
強烈な印象と言葉では言い表せない幻想的なイメージを
受けたことに由来してブランド名としました。

Asplendi

“日常の中の小さな非日常”をテーマに
大人の女性の遊び心を満足させる
ジュエリーを提案するアスプレンディ。
さりげなくも大胆な“ピンキーリングコレクション”は、
アスプレンディの代表作です。

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期（第59期）2018年3月31日現在	前期（第58期）2017年3月31日現在
資産の部		
流動資産	4,827	4,790
固定資産	2,116	2,031
有形固定資産	403	381
無形固定資産	14	1
投資その他の資産	1,699	1,648
資産合計 POINT 1	6,944	6,822
負債の部		
流動負債	2,348	2,249
固定負債	1,280	1,299
負債合計	3,628	3,549
純資産の部		
株主資本	3,278	3,258
資本金	636	636
資本剰余金	504	504
利益剰余金	2,165	2,145
自己株式	△ 27	△ 27
その他有価証券評価差額金	37	14
純資産合計	3,315	3,273
負債純資産合計 POINT 2	6,944	6,822

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期（第59期）自2017年4月1日 至2018年3月31日	前期（第58期）自2016年4月1日 至2017年3月31日
売上高	5,025	5,163
売上原価	3,534	3,685
売上総利益	1,490	1,478
返品調整引当金戻入額	2	1
返品調整引当金繰入額	1	2
差引売上総利益	1,491	1,478
販売費及び一般管理費	1,411	1,420
営業利益	79	57
営業収益	168	165
営業外費用	165	131
経常利益	82	91
特別損失	5	—
税引前当期純利益	76	91
法人税、住民税及び事業税	14	14
法人税等調整額	5	△ 5
当期純利益 POINT 3	56	82

キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科　目	当期（第59期）自2017年4月1日 至2018年3月31日	前期（第58期）自2016年4月1日 至2017年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	181	96
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	50
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 45	△ 560
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	58	△ 413
現金及び現金同等物の期首残高	397	811
現金及び現金同等物の期末残高	455	397

決算のポイント

POINT 1 資産

総資産は、前期末と比べ122百万円（1.8%）増加し6,944百万円となりました。主な変動内訳は、商品の増加63百万円、現金及び預金の増加42百万円、投資有価証券の増加30百万円、売掛金の減少103百万円等であります。

POINT 2 負債純資産

負債合計は、前期末と比べ79百万円（2.2%）増加し3,628百万円となりました。主な変動内訳は、短期借入金の増加193百万円、1年内返済予定の長期借入金の減少166百万円等であります。また、純資産合計は、前期末と比べ42百万円（1.3%）増加し3,315百万円となりました。主な変動内訳は、その他有価証券評価差額金の増加22百万円、利益剰余金の増加20百万円等によるものです。

POINT 3 当期純利益

売上高は前期を若干下回りましたが、売上総利益率に改善が見られ、販売促進費等の支出の見直し等もあり営業利益は前期を上回る事が出来ました。
しかし、営業外においてコミットメントフィーの発生、不動産賃貸原価の増加等により、経常利益、当期純利益の各段階で前期を下回る事となりました。その結果、売上高5,025百万円（前期比2.7%減）、営業利益79百万円（前期比39.1%増）、経常利益82百万円（前期比10.1%減）、当期純利益56百万円（前期比32.0%減）となりました。

株式の状況

（2018年3月31日現在）

- 発行可能株式総数　1,311,000株
- 発行済株式数　442,111株（自己株式5,745株を除く）
- 株主数　231名
- 大株主

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
政木喜三郎	43,887	9.9
有限会社ケイ・エム商事	30,000	6.8
中川千秋	22,050	5.0
政和商事株式会社	19,879	4.5
東京貴宝取引先持株会	17,900	4.0
有限会社ウラケイパール	16,500	3.7
株式会社古屋	15,700	3.6
さが美グループホールディングス株式会社	15,400	3.5
政木喜仁	15,400	3.5
政木ふじ江	14,238	3.2

（注）持株比率は、自己株式（5,745株）を控除して計算しております。

役員の状況

（2018年6月28日現在）

代表取締役社長	中川千秋
取締役	石塚秀樹
取締役	日笠祐二
取締役	政木喜仁
社外取締役	檜垣　勉
常勤監査役	政木みどり
監査役	居関剛一
監査役	梅田信利

会社の概要

（2018年3月31日現在）

- 社名　東京貴宝株式会社
- 設立　1960年11月
- 所在地　【本社】〒110-0015　東京都台東区東上野1-26-2
  TEL 03-3834-6262（代表）
  【大阪営業所】〒542-0081　大阪市中央区南船場3-7-30　菅田ビル
  TEL 06-6252-7838（代表）
- 資本金　6億3,660万円
- 事業内容　貴金属宝飾品の企画、製造、輸入および卸売業
- 従業員数　90名
- 子会社　TOKYO KIHO OVERSEAS（HK）LIMITED
  ㈱アスプレンディ
- URL　http://www.tokyokiho.com

株主還元について

当社は株主に対する利益還元を最優先課題と認識しております。今後の経営環境および業績等を勘案しつつ株主還元を重視し、継続的な安定配当を行うことを基本といたしております。適切な内部留保を確保した上で、株主に対する積極的な利益還元に努めて参ります。

単元株式数の変更および株式併合について

全国証券取引所が、投資家の皆様の利便性を向上させる為に、全ての国内上場会社の普通株式の売買を100株に集約することを目指しており、当社もこの趣旨を尊重し、2017年10月１日を効力発生日として、単元株式数を100株に変更いたしました。単元株式数の変更に併せて、全国証券取引所が望ましいとしている投資単位の金額水準（5万円以上50万円未満）を勘案し、当社の普通株式について、10株を1株の割合で株式併合を実施いたしました。
また、株式併合により、発行済株式総数が10分の１に減少することとなりますが、純資産等は変動しませんので、1株当たりの純資産額は10倍となり、株式市況の変動など他の要因を除けば、当社株式の資産価値に変動はありません。

Stock Holders Memo 株主メモ

事業年度	毎年４月１日から翌年３月31日まで
定時株主総会	毎年６月
期末配当金	毎年３月31日における最終の株主名簿に記録された株主様にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により中間配当を実施する場合、毎年９月30日における最終の株主名簿に記録された株主様にお支払いいたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	同上
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町１-１ 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号　三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
	TEL 0120-232-711（通話料無料） 受付時間 9：00～17：00（土日休日除く）
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ（スタンダード）
公告の方法	電子公告 当社公告につきましては、下記ホームページに掲載いたします。ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。 http://www.tokyokiho.com/kessan.html
【ご注意】	1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱い出来ませんのでご注意ください。 2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。 3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

東京貴宝株式会社
〒110－0015　東京都台東区東上野1－26－2
TEL 03－3834－6262（代表）　URL http://www.tokyokiho.com